

資料2

2021年度 豊岡市障害者自立支援協議会 運営会議 報告資料

メンバー	代 表：谷 友紀子（生活支援センターほおずき） 委 員：山本 直（豊岡市障害者相談支援事業所）、稲津 慎也（北但広域療育センター風）、宮下 典子（NPO法人セルフサポートいずし）、木村 尚子（一般社団法人暮らしの学校 農楽）、福田 寛子（豊岡市健康増進課）、松田 悟（豊岡市社会福祉課） 事務局：梶原 博和、足立 美由紀（豊岡市社会福祉課）	会議	1回(6/1)、2回(6/22)、3回(7/30)、4回(8/24)、5回(9/30)、6回(10/13)、7回(11/25)、8回(12/21)、9回(1/25)、10回(2/22)、11回(3/1)
------	---	----	--

期	現状 と 課題	協議の主な内容	今後の取組方針
通年	相談支援体制について ・ 障害福祉サービス利用者が増えており、新規の相談が断られていることがある。 ・ 児童のセルフプランが増えている。 ・ 相談支援専門員が抱えている件数が多い。	【上半期】 ・ 相談支援専門員を増やす必要がある。 ・ 委託相談を全事業所に委託する方法もある。また、地域課題は委託相談に挙げて、役割分担する方法もある。 ・ 相談支援体制を見直す必要があり、その中でサービス提供事業所と共に、生活支援の役割を考えていく必要がある。 ・ 障害者基幹相談支援センターを含めて、今後の相談支援体制について理解を求めていく必要がある。	・ 市において検討を進める。
	人材確保及び育成について ・ 福祉人材が不足している。募集をかけても応募がなかったり、働いて数年で転職される方がある。 ・ 職員の交流や情報共有の場が少なく、悩みを軽減できる場が必要である。	【上半期】 ・ 豊岡の福祉の仕事を発信していく必要がある。 ・ 人材の確保と育成を同時に進めることは難しい。まずは育成を充実させて、その後、確保に取り組んでいきたい。 ・ 事業所間で人事交流し、他の事業所を経験することでいい刺激を受ける。 ・ 研修を行い、交流や意見交換ができる場が持てたらいい。 【下半期】 2/11「豊岡市障害者自立支援協議会研修会」オンライン開催 参加者52名 同志社大学社会学部社会福祉学科 空閑教授の講演 ・ 受講者にアンケートをとり、今後の研修の希望、地域の課題と感じていること等を聞いた。（別添資料参照） ○地域の課題と感じていること ・ 障害者と地域との交流が少ない。農福連携や買い物支援など、障害者が地域を支援するような取組ができればいい。 ・ 年1回程度のイベント等をしていても効果がないため、定期的な開催が必要である。地域の方に障害者を見てもらうことが必要である。 ・ 支援員や学校教職員に、子どもの将来の繋ぎ先が十分に知られていない。事業所を回って、作業の様子などを見てもらう機会をつくってみてもいい。また、学校教職員に、卒業後の生徒の社会参加の状況を知っていただきたい。 ・ 障害者自立支援協議会全体会議の委員にも、事業所の様子を見ていただき、障害者の理解を深めていただきたい。 ・ 地域活動支援センターの利用者が減っている。新規利用者が少ない。地域活動支援センターも含めて、選択肢がたくさんあることを知ってもらいたい。	○来年度の研修予定【年3回予定】 ・ 虐待防止に関する研修会（6～7月頃） 令和4年度より障害福祉サービス事業所において、虐待防止推進のための委員会設置や研修が義務化される。その進捗状況を確認・促進のため、自立支援協議会として情報提供や研修を実施する。 ・ 情報交換会（研修会） 障害福祉サービス従事者同士が支援の質を高め合い、ネットワークを作ることを目的とした情報交換の場を作る。 ・ 対人援助技術に関する研修会 同志社大学・空閑教授に講師依頼予定 ○障害福祉サービス事業所を知ってもらう見学ツアーの実施 対象は、その都度変えていく。（福祉関係者、障害児と保護者、教育関係者等） 見学ツアーの仕組みを作り、継続させていく。